

「イースターおめでとう」

2021年04月21日

ブラジルのサルバドールのヴァレリオ・シルヴァ合同長老派教会の宣教師として奉仕しておられる小井沼眞樹子師から「イースターおめでとうございます」というお祝いメールが届いた。ブラジルのボルソナロ大統領はブラジルのトランプと言われているように、コロナ対策を取らず、経済を優先させているので、コロナは爆発的な感染の広がりを見せている。1日に4000人もが亡くなる日もあり、テレビや新聞で、死者を埋葬する映像では、数の多さに驚愕する。眞樹子師の宣教活動も、著しく制限され、自宅に閉じこもっているような生活を強いられている。会堂の建設も最終段階に来ているが、コロナ禍でつまづいているらしい。時々、電話をいただき、1時間くらい話し込んでいる。買い物に行く途中、路上にいる人に手作りの弁当を差し上げる日々を過ごしているとのこと。ワクチンを2回、接種したそうで、少し安心だが、置かれた状況を推察し、皆様にも祈っていただきたいと思い、メールを転載したい。また、makiko.jo1511@gmail.comにお見舞いのメールを送ると、喜んでくれると思う。

《死んだ方、否、むしろ復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右におられ、私たちのために執り成してくださるのです。…

私は確信しています。死も命も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、高いものも深い者も、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないのです。(ローマ8章34-39節)

遅ればせながら、主イエスのご復活をこころから喜びご挨拶申し上げます。

コロナ禍が猛威をふるう中で迎えた今年の復活祭に、特別の感慨を深めています。特にブラジルでは24時間の死者が4千人を超える日もありましたから、自分が生きていることの重みと死に逝く人々への哀惜の念に胸がつぶされそうになっています。そういう状況の中で接する聖書のみ言葉は、実に力を帯びて迫り、いのちに滋養を与え、生きる力を注いでくださいます。本当に主イエスは死に打ち勝ち、復活されました。ハレルヤ！

この困難な状況の中で、自分に託されている小さな奉仕、お弁当作りを続けています。路上にいる隣人に「イエスさまの愛」と言って手渡すとき、復活のイエスに出会っている感謝で満たされますが、同時に、何という非人間的状況に人々が苦しんでいるかと…そこでまた、十字架に磔られているイエスにも出会っている気がします。

私は今日(4月16日)、2回目のワクチン接種を終了しました。15日後に免疫が確定することと、これからは感染をさほど心配せずに街路に出かけていけることを嬉しく思っています。先週、ヴァレリオ・シルヴァ教会の長老ご夫妻(40歳代)がコロナに感染して入院、とても心配しましたが回復が早くてもうすぐ退院できるとのこと。慈しみ深い神さまに感謝！

皆様が日々守られ、この困難な状況にあっても信仰を保ちつつ希望をもって耐え忍ぶことができますように、いつもお祈りしています。

小さな者を覚えてお祈りくださることを感謝しつつ。 4月16日 小井沼眞樹子